

生きる力をはぐくむ キャリア教育の工夫

～夢や希望をもち、自己実現をめざす教育の推進～



桜区 大久保中学校 研修主任 **春山 悟**

1 はじめに

本校では、キャリア教育の目標を「一人ひとりの個性や可能性を生かし、主体的に進路を切り拓くことができる生徒の育成」と掲げ、生徒の学び合いの場を意図的に設定し、学びを支える環境を整えるとともに、自己の課題解決に向けて自分の思いを表現できるような支援の実践に取り組んだ。

2 研究概要

(1) 課題設定の理由

キャリア教育の社会的な要請は社会や経済の構造的変化や雇用の多様化を背景に、将来への不透明さが増している現在とても重要なものとして位置付けられている。こうした困難な社会であるからこそ、今の子どもたちは自分の夢や目標を明確にもち、自己の個性や可能性を生かし、夢の実現に向けて見通しをもって努力しようとする強い意志や能力が必要であると考え。このような意欲・態度、能力は身近な地域や実生活とのかわりを大切にしながら、体験的な学びを通してはぐくむことができるものである。そこで本校では、これまでの研究「生きる力を育てる教育課程の実践」を基盤にすえ、学力向上が自分のよさや可能性を高め、将来の進路選択が生き方へ結びついていくように各教科、道徳、総合的な学習の時間、並びに特別活動を通し実践研究を深めていきたいと考えこの課題を設定した。

(2) 研究仮説

各教科・領域においてキャリア教育ではぐくむ諸能力の視点を取り入れ、①生徒の学びを支える環境（コミュニケーションを図り、学び合い、支え合い）の場を設定し、②課題に向けて、一人ひとりが自分の考えた方法で課題追求や自分の思いを表現できるよう支援の方法を工夫すれば、自己実現を目指す生徒の育成ができるであろうと考える。

3 アンケート結果

キャリア教育4領域の視点に立ったアンケ

ートを実施し本校生徒の実態に迫った。

○人間関係形成能力

- ・学校行事等、クラスの仲間と協力し、頑張る生徒が多い。
- ・集団の中で自分のよさを発揮し、積極的に取り組むことが苦手である。

○情報活用能力

- ・本や情報機器を利用して、情報を得ることができる。
- ・多くの情報から選別し、整理し、わかりやすくまとめる知的作業に慣れていない。手間を面倒と感じる生徒が少なからずいる。

○将来設計能力

- ・自分の中では、よりよく生活しようという前向き意識はもっている。
- ・目標に向かって計画的に努力することが苦手である。

○意思決定能力

- ・人の考えやよいところを自分に取り入れようとする素直な生徒が多い。
- ・物事を投げ出さず、最後まで自分なりに解決するための方策や手順を知らない。

本校の生徒について、今後、取り組む課題が確認できた。このことをもとに学年の目標・具体的な取組を次に示す。

3 各学年の目標・取組

学ぶこと	生きること	働くこと
------	-------	------

3年生

将来設計を達成するための困難にうち勝つ力を身に付け、社会の一員としての義務と責任を理解する。

2年生

将来の夢を達成する上での現実の問題を模索し、社会の一員としての自覚を培い、社会や大人を客観的にとらえる。

1年生

将来に対する漠然とした夢や希望をいだき、集団の一員としての役割を理解し、自己のよさや友達の個性を認める。

第1学年

1 特に身につけさせたい能力

人間関係形成能力

- (社会形成能力・自己理解・自己管理能力)
- 自分の個性を見つめ、将来への関心を高める。
 - 身近な人々の仕事を知り、職業に対する意識を育てる。
 - 社会において必要とされるスキルを学び、集団や他者とのかかわりの中で活用できる力を育てる。

2 具体的な取組

- ◇特別活動・総合的な学習の時間
 - ・図書室の利用。『なるにはボックス』を使用。
 - ・コンピュータ室の利用。
 - ・調べたものの探求と発表。
 - ・問題解決学習。
 - ・川越校外学習。
 - ・職業調べ・職場体験学習。(未来くるワーク体験)
- ◇潤いの時間(人間関係プログラム)
 - ・相手が元気の出る話の聴き方。
 - ・上手な対応。

◇道徳

- ・1-(1) 日々の心構え
- ・1-(2) 目標に向かう意志
- ・1-(5) 自分をきたえる



第2学年

1 特に身につけさせたい能力

人間関係形成能力

- (社会形成能力・自己理解・自己管理能力)
- 多様な他者の考えや立場を理解し、協力し、協働することができる力を育てる。
 - 自己肯定感をもち、前向きに努力することができる力を育てる。
 - 自分の思考や感情を律し、どうすべきかを考え、行動することができる力を育てる。

2 具体的な取組

- ◇特別活動・総合的な学習の時間
 - ・未来の自分についての具体的なシュミレーション。
 - ・働くこと学ぶことの目的と意義。
 - ・中学校卒業後の進路。
 - ・図書室やコンピュータ室の利用。
 - ・課題解決学習。(社会科による調べ学習)
 - ・上級学校調べ。(まとめ、発表等)

◇道徳

- ・1-(2) 強い意志
- ・1-(4) 理想の実現
- ・2-(5) 個性や立場の尊重
- ・4-(4) 集団生活の向上



第3学年

1 特に身につけさせたい能力

人間関係形成能力(自己理解・自己管理能力)

将来設計能力(課題解決能力)

意思決定能力(キャリアプランニング能力)

- 自己理解を深め、自他のよさを知り互いに認め合う力を高める。
- 様々な社会の役割や意義及びその関連を知

- り、自己の生き方を考える力を高める。
- 困難を克服する強い意志と、多様な情報から自己の課題を積極的に解決することができる力を高める。

2 具体的な取組

- ◇特別活動・総合的な学習の時間
 - ・進路学習会。(進路選択の実際と手順)
 - ・自分の社会適応力の確認。
 - ・上級学校調べ。(報告書づくり 壁新聞)
 - ・京都・奈良班別行動づくり。
- ◇道徳
 - ・1-(2) 目標に向かう意思
 - ・1-(4) 夢を追い求める心
 - ・2-(1) 礼儀の意義
 - ・4-(5) 勤労の尊さ



4 成果と課題

〈成果〉

- ・キャリア教育に関するアンケートを実施し、生徒に付けたい力を明確にして指導することができた。
- ・生徒は、人とかかわりの中で自分を見つめ、将来を考えるよい機会となった。
- ・キャリア教育を軸に、各教科等の関連性を考慮し、今後も相乗効果が期待できる。
- ・働くことや学ぶことの意義についてクラス内で意見交換したことで、他者の多様な考え方や価値観を知り、多面的な見方を学び、理解を深めることができた。
- ・高校の先生による高校説明会を開催したことで、将来の生き方や中学校卒業後の進路について、生徒は自分自身のことと受け止め、より強く意識するようになった。このことは、客観的に自己評価する目をもつことにつながっている。
- ・普段の授業への取組を中心に学習することに対して、以前よりも真剣に向き合う姿勢が見られるようになった。
- ・高校進学だけではなく、その先の高校卒業後の進路(進学・就職)について関心を持ち、調べる生徒が複数見られた。

〈課題〉

- ・興味・関心の薄い生徒に対する対応を工夫する必要がある。
- ・今後、生徒だけではなく、保護者も参加できるような学習の場を設定することで、さらなる意識の高まりが期待できる。
- ・外部の機関・団体と連携を図り、生徒の知識や価値観など、視野を広げていくことができる体験学習を取り入れていきたい。
- ・教職員がそれぞれの価値観や経験に頼るのではなく、キャリア教育の視点をもって、体系的に組織的に指導にあたっていけるように研修を重ねる必要がある。
- ・学ぶことの大切さ、基本的生活習慣の大切さを生徒一人ひとりに身に付けさせるためにも、再度、組織を細分化するなどの見直しを図り、取り組む必要がある。